

N小学校（通級指導教室）

【学校の概要】

N 小学校は、昭和 39 年には難聴学級が設置され、難聴児の教育に関して長い歴史のある学校である。平成 27 年には言語障害を対象とする通級指導教室が設置され、難聴言語障害通級指導教室として新たなスタートを切っている。同じ校内に幼稚園を併設しており、また敷地隣には保育園も設置されており、幼・保、小の連携が常に行われている。

【特徴的な点に関するまとめ】

平成 27 ～ 28 年は、ICT 教育推進校に指定されており、機器の整備はかなり進んでいる学校である。タブレット型コンピュータは Windows のものが児童に一人一台整備されており、校内 LAN も整備されどこでも接続が可能である。また、タブレット型コンピュータは個人 ID で管理されており、必要に応じて家庭に持ち帰ることもでき、家庭学習での活用も進んでいる。

今回は通級指導教室での事例を取り上げる。通級指導教室では二人に一台 iPad が整備されているが、校内 LAN に接続することはできない。個別指導場面での活用であるため、児童の実態に応じて使用するアプリを選び、困難さに応じた活用がなされていた。

【特徴的な事例】

（1）児童生徒が参加する授業

- ①教科名等 自立活動
- ②授業の目標等

正確に言葉を聞き取る力を付けるとともに、語彙を増やす。

（2）児童生徒の実態

- ①学年 4 年生
- ②指導の場 通級指導教室（きこえ）
- ③児童生徒の障害および課題（特性・ニーズ）

対象となる児童生徒の障害は、難聴で両耳に常時補聴器を装着している。大まかな内容は聞き取れているようであるが、正確な文言は聞き取れない場合も多く、聞き返すことも多かった。児童自身の発音にも不明瞭な音が多く、教師が聞き取れない場合もある。

（3）ICT 活用について

- ①使用した支援機器・教材の名称 iPad、「筆談パッド」(図 4-3-6)
- ②活用のねらい

会話や教師の指示の大意は理解しているが、正確に聞き取れていない場合があるため、正しい文言の確認をする。また、児童の発音が聞き取れない場合に、教師が確認するためにも使用する。

③活用の様子

- プリント学習：児童が記入した文字の誤りを、教師が言葉とともに iPad に書いて指摘し、見て確認した上で修正させる（図 4-3-6）
- 季節に関する言葉の学習：季節に関する絵を見て、名称を答える。覚えていることばも多かったが、忘れたり知らなかったりすることばもあり、教師の回答を聞き、児童が復唱していた。表記については、知らないことばを中心に iPad を使って漢字での表記や正しい名称を教えていた。

④ ICT 活用による児童生徒の変容や評価

指導全体を通して、聞き取りや表記の確認に iPad が活用されていた。「筆談パッド」は、教師、児童それぞれの向きで書いた文字が相手の向きで表示されるため、向かい合っただけの個別指導ではとても効果的であった。また、教師の文字色、児童の文字色を変えることができるため、「○（正解）△（おいしい）」などの評価を書き込んだり、正しい表記を書き加えたりする際に、児童にとってわかりやすく表示されることも効果的であった。

（梅田真理、金森克浩）

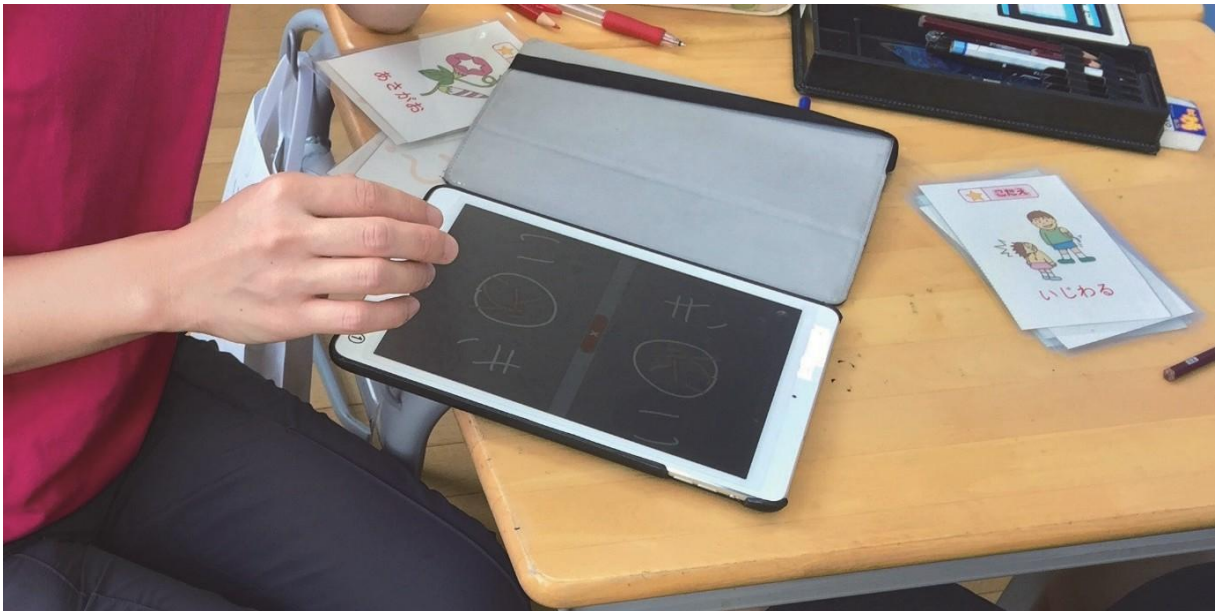


図 4-3-6 「筆談パッド」で発音の指導をしている様子

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「C-94 障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究—学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理—」（平成 28 年 3 月），102-103 に記載された内容である。